

C-12 女児の身体発達の縦断的研究(第1報) —身長・下肢長・上肢長について—

お茶の水女大家政 柳沢澄子 十文字学園女短大 ○古松弥生

目的: 衣服の型紙設計における基礎的研究として、女児の成長様相を把握することを目的とし、身体計測に基づく個体の追跡的研究を行った。

方法: 昭和34年4月、都内の〇大学附属小学校に入学した女児40人について、中学校3年まで連続9回、毎年9月に身体計測を行い、20項目の計測値を得ている。今回は、身長・下肢長(前上腸骨棘高を用いた)・上肢長をとりあげ、TANNERらが用いている方法、即ち個々の計測値を方眼紙上にプロットし、これを平滑化して成長曲線並びに年間増加量を推定するという縦断的处理により、成長様相の検討を試みた。

結果: 上述のような縦断的处理により次の結果を得た。1)年間増加量の最高値を示す年令並びにその量の平均値は、身長では11.30才、8.7 cm、下肢長では11.08才、5.4 cm、上肢長では11.32才、4.1 cmである。即ち、思春期における3項目のスパートは、下肢長が最も早期であり、次いで身長・上肢長の順であるが、3項目ともピーク年令のはうつきが顕著である。2)身長のピーク年令と初潮年令との差については、平均値: 1.42年、標準偏差: 0.8年で、個人差が著しい。3)年間増加量について、同資料を横断的に処理した場合と比較すると、身長では2.0 cm、下肢長では1.3 cm、上肢長では1.1 cmだけ、縦断的处理による方が大である。